第４章
環境基本計画の
進行管理

写真：大阪国際空港周辺緑地（伊丹スカイパーク）

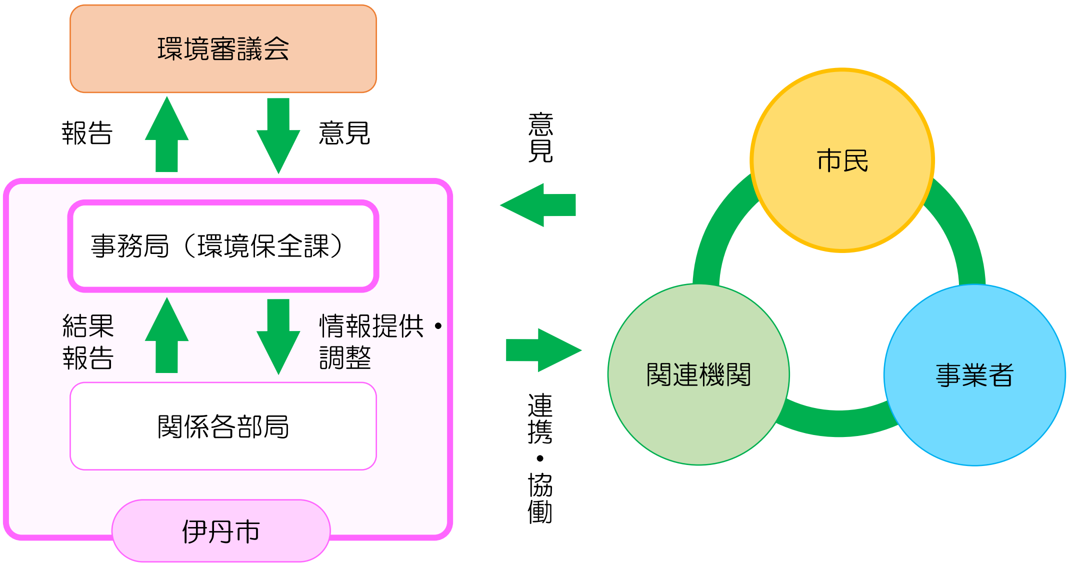
第4章 環境基本計画の進行管理

1. 計画の推進体制

本計画を総合的かつ計画的に推進するためには、各主体（市民・事業者・市）による自主的・積極的な取組と参画・連携による形成が欠かせません。

各主体の取組の実効性を確保するためには、計画の進行管理が最も重要であり、本計画の進行状況を管理するための組織体制は、次のとおりとします。

計画の推進体制



2. 進行管理の仕組み

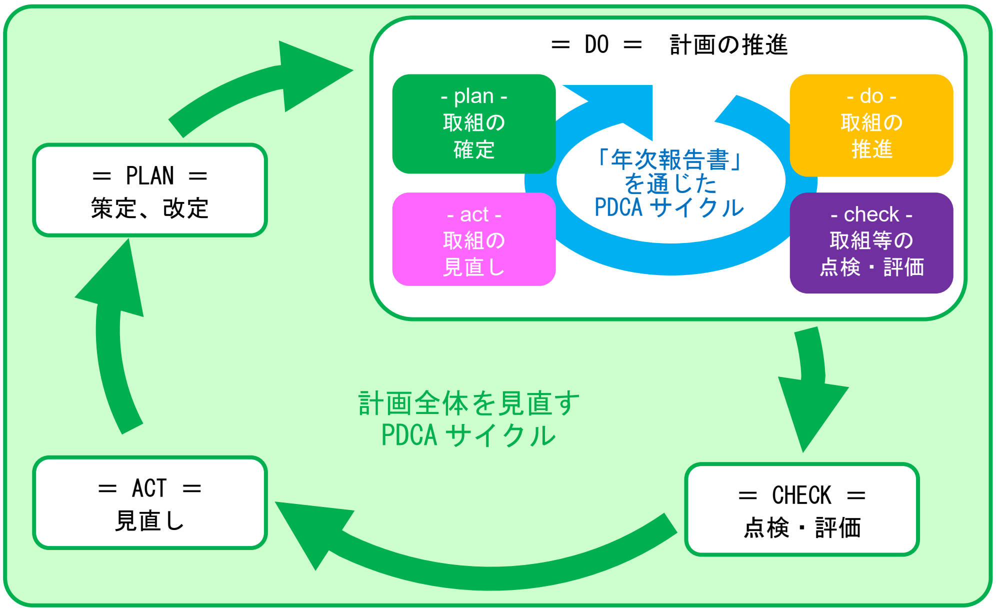
本計画に掲げる施策を着実に推進することはもとより、取組のあり方や計画の内容について継続的な改善を図ることが重要です。

そこで、①環境基本計画（Plan）に基づいて、②計画を推進（Do）し、③進捗状況の点検と結果の公表を行い（Check）、さらに④点検結果を踏まえて取組のあり方や計画を見直し（Act）、PDCA サイクルによる継続的改善を図ります。

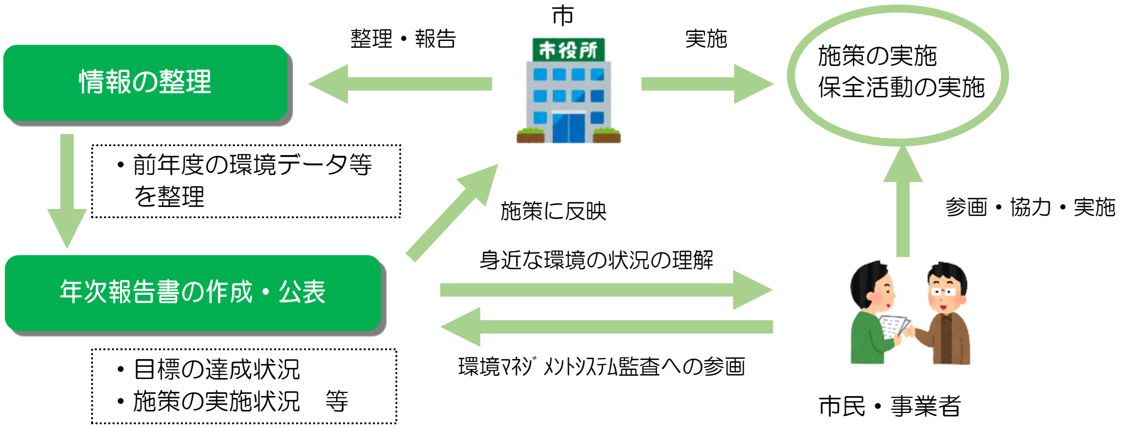
計画の目標の達成状況、施策の実施状況については、「年次報告書」として整理し、公表します。

また、調整した内容を次年度以降の各事業計画に反映させていきます。

進行管理の流れ



年次報告書作成の流れ



■ 計画の見直し（Act）

本計画の期間は、2021 年度を初年度とし、8 年後の 2028 年度を目標年度とします。ただし、社会経済情勢や環境問題の変化などに適切に対応するため、原則として 4 年後に見直しの検討を行うこととします。

3. 参考指標

定量的に進捗管理ができる活動等について、参考指標を設定し、事業の活動量や実績を測る指標とします。

基本目標	施策の方向性	参考指標
【気候変動】気候変動に対応するまち	①気候変動の緩和策	市域からの温室効果ガス排出量（推計値）（$t\text{-}CO_2$）
		エネルギー消費原単位の低減（%）
		公用車における低公害車の導入割合（%）
		伊丹市営バス利用者数（人）
		伊丹市営バス利用者数／総軽油使用量（人/L）
	②気候変動の適応策	透水性舗装面積（m^2）
【循環型社会】資源が循環する環境に配慮したまち	③廃棄物の発生抑制・再使用等の推進	一人一日当たり家庭系ごみ排出量（g/人・日）
		家庭系ごみ資源化率（%）
		ダンボールコンポストの実施者数（人）
		再生資源集団回収登録団体数（団体）
		事業系ごみ排出量（t）
		事業所指導・啓発回数（回）
	④食品ロスの削減	家庭系食品ロスの廃棄量（推計値）（t）
【自然共生・生物多様性】自然環境と共生し生物多様性が保全されるまち	⑤みどりの充実	公園に対する市民満足度（%）
		市域面積に対する永続性のある緑地面積の割合（%）
	⑥生物多様性の保全	生物多様性の認知度（%）
		昆虫館の来館者数（人）
		カラスの個体数（%）
【都市環境】良好な都市空間の整備と生活環境が保全されるまち	⑦生活環境の保全	大気・騒音の環境基準達成率（%）
	⑧良質な都市空間と住環境の形成	農地面積（ha）
	⑨安全で快適な道路空間の整備	都市計画道路の整備率（%）
		自転車レーン等整備区間延長（km）
		自転車駐車場利用台数（台）
		放置自転車等台数（台）
		交通安全教室の参加者数（人）
【人づくり】環境意識と協働の輪が広がるまち	⑩多様な主体が連携協力する体制の推進	こども文化科学館来館者数（人）
	⑪環境教育・環境学習の推進	環境体験学習の年間実施回数（回）
		環境教育実施園割合（%）
		環境ポスター・標語の応募割合（%）